

めざす児童生徒像

「温かな人間関係の中で、生き生きと自主的に活動する生徒」  
 ①「自主」・・・自分の力で判断し、自ら進んで行動できる人  
 ②「自立」・・・自分の行動や言動に、責任を持つことができる人  
 ③「奉仕」・・・思いやりの心を持ち、人と地域に貢献できる人

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	生徒	保護者				
学校重点項目 (学校で設定)	学力向上	授業改善 ・①②の達成度 (%) を85%以上にする	① 学校に行くのは楽しい	100	91	85	-9	①②については目標の85%以上は達成している。 ③については1年生は十分に時間を与えれば準備をしてできるが、3年生は説明する習慣がついていない。	約1割の生徒が否定的な回答なので、全員が「楽しい」と思える温かい学校づくりを目指す。授業においても「わかる・できる」だから「楽しい」と感じる生徒主体の授業づくりを目指す。 ③についてはもっと自分の考えを持たず時間を確保し、その際考える視点となることを明確にする。	
			② 好きな授業がある	100	92	73	-8			
			③ 授業で自分の考えを説明したり、書いたりすることは難しい	67	69		2			
			集計							
			集計							
学校重点項目 (学校で設定)	自己有用感向上	生徒指導 ・全項目の達成度 (%) の平均を85%以上にする ・④の達成度を100%にする	① 自分にはよいところがある	97	70	81	-27	①については目標の85%をやや下回っている。②③については上回っている。 ④については大きく下回っている。	生徒の力を信じ、生徒が主体となる活動を今後も継続し、努力したことをお互いに認め合う場面をどんどん仕掛けていく。	
			② ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	87	91	85	4			
			③ 友達に会うのは楽しい	100	97	91	-3			
			④ 先生は、あなたのよいところを認めてくれる	83	81	87	-2			
			集計							
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究 ①②の達成度の平均が85%	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	93				①については、松陽スタンダードを確立し、見通しを持った授業展開や、書く力の育成に重点をおいた授業づくりに向けた校内研修会や教科部会を定期的に設定した結果、目標を上回っているが、②については大きく下回っている。	さらに継続して松陽スタンダードを意識した授業改善に努めていく。また、来年度に向けては共通理解・共通実践の内容を「学び合う必然性のある課題の設定やより深い学び合いになるような教師側のコーディネート力向上等」へ深化させていかなければならない。 道徳の教科化を意識した校内研修の充実を図る。	
			② 学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	67						
			③ 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している	77						
			④ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している	63						
			集計							
	指導力の向上	授業 ①②④の達成度の平均が85%	① 生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	93	77		-16	いずれも目標を下回っている。 めあてと流れを授業の最初に確認することで、安心して授業に臨んでいる様子はどの授業でも見られるが、授業交流や研究授業だけでは実際どこまで共通理解・共通実践できているか把握できないので、組織としての取組への意識の高さが求められる。	①②③に関する校内研修を来年度以降計画的に進める必要がある。今年度に関しては、めあて・流れを最初に伝え、書くことにより自分の考えを持たせ、まとめ・振り返りを行うことを確実に実践し来年度につなげる。	
			② 生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	90	78		-12			
			③ 生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	70	64		-6			
			④ 生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	73	72		-1			
			⑤ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、生徒自身が把握できる	50	90		40			
	集計									
	学力の定着	学力調査・教科	①②の達成度が85% ③④の達成度が80%	① 学力調査の自校採点の結果は全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている	70				①については、各教科が中心となって分析した結果をもとに改善策を示し、職員会議で共有しているのだが、数値が低い。 ②については、今年度教科部会を定期的に設定している成果である。 ③については、周知が徹底されていないことや一部による活用のみが現状であるため低い。 ④については、昨年度連携を始めたばかりなので、まだそこまでの連携は図られていないのが現状である。	③については、見直しをする際にもっと多くの意見を吸い上げ、活用の仕方を提示して、PDCAが行われるようにしていかなければならない。 ④については、3年目になる来年度に向けて、連携する内容の見直しと連携の必要性を各職員一人一人が感じられるように進めていかなければならない。
				② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている	90					
				③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている	73					
				④ 学力調査の結果や分析について、近隣等の小学校と成果や課題を共有し、教育課程に関する共通の取組を行っている(小中連携)	57					
集計										
学力の定着	家庭学習	全項目の達成度の平均を85%以上にする	① 自分で計画を立てて勉強している。	70	66	59	-4	いずれも目標を下回っている。 ①については、計画は立てるが実践できなかったり、先生がすべて段取りしてしまい過ぎという現状がある。 ②については、特に3年生に多いが、毎日の宿題に追われその日の復習まで手が回らない様子が見られる。絶対的な時間不足が懸念される。	今後もう少し生徒に任せる部分や授業と家庭学習をリンクさせ、次の授業につなげるようなサイクルの構築を目指していかなければならない。	
			② 予習・復習やテスト勉強などの自学学習において教科書(授業でのノート・資料等)を使いながら学習している	87	84	64	-3			
			③ 生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	93						
			集計							
			集計							

平成29年度小松市立松陽中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（8月提出）	取組の成果と課題（3月提出）
生徒指導	<p>温かな人間関係を育み、自治力や一人一人の居場所がある集団づくり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温かい集団づくりに向けた学級会や仲間づくり活動（SGE）を行う。</li> <li>・各種アンケートによる実態調査と分析。</li> <li>・生徒会や委員会・各学年リーダー会との連携。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の校内研修をうけて、学級スタート時に集中して仲間作り活動を行えた。</li> <li>・7月にQ Uアンケートを行い、生徒理解の一つの機会とし、夏休みを通して分析を行い2学期に向けての学年経営学級経営の一助とした。</li> <li>・生徒会を中心とした生徒主体の行事の企画運営を行った。月例の全校集会を生徒集会にし、生徒が司会を行う集会や委員会のお知らせを伝える時間を設けた。また、各学年のリーダー会を中心とした取組を行った。</li> </ul>	
特別支援教育	<p>個に応じた支援をチームで検討し、組織的に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な教育的支援を要する生徒について、定期的に学年会で話し合い、実態をつかむ。</li> <li>・相談部会および校内委員会で、支援を要する生徒への具体的な支援策を検討、実施、改善していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて頻りに開催される学年会において、生徒についての情報交換を行っている。学年で話し合われた、特に気になる生徒や支援を要する生徒についての情報は、各学年の担当者が把握し、毎月、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当、養護教諭を含んだ相談部会の場に挙げて、状況の把握、および対応の検討を行っている。それら情報の一覧を職員会に挙げ、全教職員が共通理解のもと、各生徒に対応できるように努めている。</li> <li>・授業で支援を要する生徒には、特別支援教育支援員を配置し、個別の支援を行っている。</li> </ul>	
道徳教育	<p>道徳の授業が好きになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究を深め、学年ごとに道徳資料を蓄積・保管する。</li> <li>・校内研修サポート事業を活用し、道徳の時間が充実するための授業改善に取り組む。</li> <li>・学年で1つの教材について指導案検討し、授業力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の道徳資料は蓄積することができた。</li> <li>・校内研修サポートを実施し、道徳の授業作りの参考になった。</li> <li>・10月の計画訪問に向けての道徳の指導案検討を各学年で取り組んだ。</li> </ul>	
読書教育	<p>読書への意欲関心を高め、読書習慣を身につけさせる。さまざまな本に触れさせ豊かな心を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放送朝読書、図書館での朝読書を1年を通して計画的に実施し、いろいろな本を手取る機会とする。</li> <li>・図書室での朝読書の機会を生かし、不読者となりそうな生徒に声掛けを行う。</li> <li>・学級文庫に加え、教科に関する本のコーナーを設置し、身近に本がある環境を整える。</li> <li>・委員会活動で、本の紹介や図書室に人を呼ぶ企画を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送読書は計画に合わせ、図書委員による読み聞かせも実施することができた。</li> <li>・図書室での朝読書は、都合によりできない日もあったが概ね実施。</li> <li>・年度当初の計画日に職員朝礼の日に設定しており、生徒だけの読書となる曜日もできてしまった。</li> <li>・平行読書は、国語で実施。理科でも、夏休みの研究に向けて本の紹介をした。</li> <li>・図書委員会で行った、ポイントカードの企画では多くの生徒が参加し、本のとびらの本も多く貸し出しされていた。読書につながったか不明である点が残念である。</li> </ul>	
家庭・地域の連携	<p>家庭・関係機関や地域人材を活用した教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携した家庭学習の充実</li> <li>・「松陽地区子どもを育てる会」との連携</li> <li>・地域人材の活用（総合的な学習・道徳等）</li> <li>・家庭・地域への積極的な情報発信</li> <li>・小中連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「松陽地区子どもを育てる会」で小中の児童生徒が参加したリーダー研修会（1泊）を実施した。</li> <li>・授業部会、生徒指導交流部会を開催し、全体会での模擬授業や生徒指導交流について確認し、夏季休業中に全体会を実施する。来年度に向けて学習規律やSNSについてのきまりに関する共通理解を図っていく。</li> </ul>	
生徒会活動	<p>自主的に活動する生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月例集会に執行部や委員会による「生徒会の時間」を設け、自分たちの学校は自分たちの手で作る意識を持たせる。</li> <li>・行事や日々の活動では生徒同士が自分の思いを伝え交流する場面を通じて、自分も参画したいという意識を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の集会等で、自分たちで運営する力をつけることができた。</li> <li>・これからも、生徒に考えさせて、それをサポートしていく。</li> </ul>	

学校関係者評価	<p>「温かな人間関係の中で、生き生きと自主的に活動する生徒の育成」という教育目標の下、さまざまな角度からアプローチした1学期間の取組についての実態はわかった。成果については取組の途中であるので明確なものはみえないが、今後の改善を期待して3月の評議員会で確認したい。</p>
---------	---